

わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます

SSKP いずみ

No.
152

2009年3月

社会福祉法人 泉会

法人本部
泉の家〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番23号
☎03(3417)3451(代) FAX03(5494)7533
izumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/izumi/

日の出舎

〒190-0182 西多摩郡日の出町平井3030番
☎042(597)1451(代) FAX042(597)2205
info@hinodesha.org
http://hinodesha.org/岡本福祉
作業ホーム〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番24号
☎03(3415)3366(代) FAX03(3415)4976
okamoto@izumikai.jp
http://izumikai.jp/okamoto/岡本ホーム
玉堤分場〒158-0087 世田谷区玉堤2丁目3番1号
☎03(5707)9431(代) FAX03(5707)9433
tamaturumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/tamaturumi/

「サウンドオブミュージック」よりドレミの歌を熱唱。1年間の練習の成果を披露中です（岡本ホーム年納め会）

本年の聖句
何を飲むか、何を着るか、などといって心配するのはやめなさい。・・・あなたがたの天の父は、それがみなあなたに必要であることを知っておられます。だから、神の国とその義とをまず求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。

(マタイの福音書 6章31-33節)



理事長 橋向敏治

夢をかなえる心意気

福祉社会を含め日本はもとより世界経済が混沌の昨今、どうせ何も変わらないと思うか、今は大変でも未来は良くなると思えるか、希望をかなえる心意気を持つのか正念場だと思います。最悪の事態を考慮して、全面的に悲観的に観るか、現実を厳しくても将来に明るい思考性を持つかが問われます。追い込まれるよりも、未来に希望があることが精神的にも落ち込みにくいと考慮して後者を選択したいものです。

夢をかなえる心意気を自分のものにするため、何が大切かを聴き取る力・察する力が求められると思います。聴いたり、察したり、感じとったりする力は使わなければ退化し鈍ってしまいます。相手の語ることを理解し、咀嚼し、受け止めることは、簡単な様でなかなか難しく忍耐と努力を伴います。

先達が切り拓いた慈愛の結晶「泉の家」が本年2月に取り壊し、来年2月頃に生まれ変わります。利用者・職員・地域の方々そして全国より支えて下さる皆様とより緊密なコミュニケーションを心掛けて参ります。

泉会の伝統を受け継ぎ利用者の自立支援・地域に根ざした福祉を再構築して取り組みます。

今後とも皆様の温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

泉の家

就労活動の現状について

前年度の一般就労した利用者の方は、企業に勤めた経験をもっていただくため、仕事という事に対して具体的なイメージを持つことが出来ていたので、その経験を基に支援し、一般就労につなげることができました。

今回の利用者は、初めての就職活動となった為、募集要項を見ても何を基準に選んだらいいのかさえ分からない状況でした。

まずは、履歴書を自分で買いに行き、相手が見やすいように丁寧に記入することから始めました。

また、自分の障害の説明の仕方・「なぜこの仕事をしたいのか」を説明する練習・自分の長所と短所等、面接の練習を通して11月18



本番に向けて面接の練習です。

日の障害者就職面接会に参加しました。初めてのことはばかりで、練習どおりには上手くいきませんでしたが、経験を積み一般就労に向けていきたいと思っています。

(本田 羽瑠香)

日の出舎

新法移行への準備

日の出舎は新法移行に関し、利用者の障がい状況や生活環境等を勘案し「生活介護」と「施設入所支援」を中心とする事業を行なおうとしています。今年

度からはそのための準備期間として、日中活動の見直しを進め、作業時間の短縮と創作的活動や機能維持等の健康面を配慮した生活介護活動プログラムの導入を図りました。もちろん、通所の方のための就労移行と就労継続B型も行なっていく訳ですから、引き続き作業は行なっています。結果、総作業時間が約3割強減ったことになりました。したがって売上げも伸びなやみといったところでは、工賃の平均は、2005年度8065円、06年は9403円、昨年度は9634円と若干増えている程度です。

作業種目は、自主生産の木工、食品の燻製と簡易受託(下請け)事業を行なっています。木工は、注文品の割合が多く、中でも官公需(東京都等)の募金箱や東京マラソンのグッズ、保育園の記念品等が定期的に入ってきています。その他キーホルダー等の小物類やおもちゃを作製しています。楽天市場のネット販売も昨年度から始め、徐々に注文が増えてきました。受託事業は、地場産業の葬祭品、簡易機械の

耐久テスト、携帯電話の携帯充電器組み立て等です。今年からは他施設からの要請で紙のリサイクル事業も始めました。これは障がいの程度に応じた作業種目で、特に、身体機能が多く制限されている方が自ら作業ができるようにと導入しました。また、施設間のネットワークにも繋がります。その他、利用者だけで製品作りができ、生産性が高くなるよう、自助具の開発も積極的に行なっています。

どうか皆様、日常の活動の様子もごらん頂きますよう、東京のオアシス「日の出町」へ足をお運び下さい。お願いします。

(西田 徹)

岡本ホーム

新事業が始まって

今年度よりスタートした就労移行支援事業及び就労継続B型支援事業(岡本ホームでは合わせて就労チームと呼んでいます)は10名以下という少数精鋭が始まり、昨年度までのワークコースの活動内容を原型に

就労活動の現状

活動をスタートしました。

昨年度と比べて1日の作業時間も長くなり、基本的には毎日作業活動と(昨年度までは毎週水曜日に生活活動やクラブなどの活動をしていました)なったため、年度当初は利用者の皆さんにとって大変なものでした。また、ワークコースでは作業種目も多く、週に1日絵画などの創作活動を選択していた利用者もいましたが、新事業の中では下請け作業が活動の中心となっているため、多くの作業に関わる事ができなくなった事も想像以上に大変な様子で「疲れた」「きつい」などの声も聞きました。

しかし、作業時間が長くなった事によって下請け作業で今まで以上の注文にも応えられるようになり、タイトなスケジュールを乗り越えた後は、充実感や達成感を感じたとの声も聞きました。昨年度と同じ内容



下請けの宅配寿しのセットを袋詰めしています

の作業ですが利用者が関わる工程を増やし、道具や資材など置き方を工夫したこともあり、なるべく職員に頼らずに作業を進められるよう利用者同士声を掛け合っている場面も見られるようになりました。

「時間が長くなり疲れやすい」「クラブもやりたい」など大変になったと感じている声もありますが、工賃が増えたという目に見える変化もあり「もう少し仕事をする心構えが必要だと思った」「作業に対する責任感も生まれた」といったやりがいを感じている声も上がっています。

(越川 則行)

玉堤分場

就労移行支援が始まって

2008年4月から始まった「就労移行支援事業」。現在3名の方が利用されています。今回は、具体的にどんな活動をしているのかご紹介いたします。

玉堤分場では新事業移行前からハローワークへの登録、就職相談会への参加、就労支援機関の利用を行なっていたので、その経験とネットワークを活かして活動を展開していきまします。

まず最初に、区内の就労支援センター主催の研修に参加し、履歴書の書き方や面接の受け方を練習しました。そこから見えてきた課題に対し、週1回のパソコン練習、月2回のグループワーク、月1回のスーツ着用デーという所内プログラムを立て、実施しています。残念ながら就職には繋がりませんでしたが、秋の就職相談会ではスーダーによるスーツ慣れ、面接練習、パソコンで作成した履歴書がとても役立ちました。

また、現在グループワークでは



「この日は予定あったかな?」

スケジュール管理に取り組んでいます。高次脳機能障害の障がい特性により、スケジュール管理が難しいため、自分のスケジュール帳を持ち、通院等の個人の予定、施設の予定を書き込み活用する練習を始めました。活動の中で、自身の障がいと向き合う場面もあり、大変さもありますが、臨床心理士や作業療法士、言語聴覚士のアドバイスを受けながら取り組んでいます。

こうしたプログラムを日常活動や、作業活動にも活かしながら、充実した2年目にしたいと考えております。

(上原 絹代)

泉の家 改築工事始まりました



平成20年度の国庫補助の内示をいただき、老朽化した泉の家の建替え計画を具体化して進めてきました。

当初の計画では、昨年の8月より、解体を予定していましたが、計画を進めていく中で、より具体的にするために、既存の建物の状況を詳しく調べました。地下に埋まっている基礎や隣接地との擁壁の構造・試し掘りや地質調査などを実施しました。その結果、既存の建物を解体することは、単純にいかないことが分かりました。解体をしていく段階で、隣接している擁壁の増設が必要となりました。新たな建物の建築と解体を、一部一緒に進めていく事が必要となったのです。



本館の解体に向け囲いや足場が組まれました。

来るようになるのです。これらの手順を、細かくマニュアルに従って進めていきます。

泉の家のある、世田谷区岡本町は住宅専用地域にあります。今回の改築工事では、特に解体を慎重に進めていく必要性から、当法人として、しっかりとした業者に落札をしていただきたこと、業者の選定基準を高くして、指名競争入札で行なうことを、理事会で決定しました。現場説明会は、昨年の12月8日に、入札は1月6日に行ないました。参加していた業者の方には、年末から新年に掛けて、見積りなど入札に向けての準備をしていただき感謝いたします。入札の結果、松井建設株式会社、落札をしていただきました。当初計画より4ヶ月程遅れてしまいましたが、無事に落札が終わることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

2月初めに、住民の方々に工事説明を行い、2月中旬より解体を進め、5月に新たな泉の家の建築に取り掛かり、来年の1月に竣工の予定となります。

今後も、各種の申請など事務的

な仕事や建築について、まだまだ多くの課題や困難な状況があると思いますが、設計は広建設株式会社、建築業者は松井建設株式会社、施工主は社会福祉法人泉会と三者がガッチリと手を握り、妥協することなく、障がいのある方に、気持ち良く利用していただける施設作りを行います。

工事期間中は、安全第一に実施していきます。特に近隣の方々には大変ご迷惑をお掛けすることになります。

皆様方からのご支持や支援を、今後ともいただけますよう、お願い申し上げます。

(保坂 俊晴)



自転車作業室(プレハブ)の解体。



二〇〇九年新年会

今年は、代替地での新年会となりました。広さの関係で、今までのように泉の家にお客様をお招きすることが出来ません。それなら「今しか出来ない新年会をしよう。」という事になり、利用者の皆さんが歩いて行けるボーリング場でボーリング大会をする事に決めました。昼食は



三角台を駆使してストライクをだすぞ!

利用者から希望のある外食にしようということでボーリング場のそばにあるレストランになりました。11月に行われた、理学療法士の活動では、看護師と相談して新年会の下見も兼ねてリハビリ(運動・運動能力観察)でボーリングをしました。新年会では賞品も出るということで、皆練習に熱が入りました。当日は心配された雨も上がって小春日和のような暖かい日となりました。理事長の始球式が始まりました。一投目は利用者が、次にお客様・職員が投げるという形で始まりました。ガーターになっても照れながらうれしそうな顔で帰ってくる人。スベアが取れて大喜び!今まで見たことのないような笑顔を皆、見せてくれました。ボールを投げるフォームがカッコイイ人。ぽとりと落したボールがストライクになったりもしました。勝敗は格好ではありません。岡本福祉作業ホームから来た2人の利用者は三角台を使って参加しました。ストライクも出て満面の笑顔でした。玉堤分場から来た利用者も



皆から祝福を受ける玉井さん

出した、守屋さんと施設長のペアでした。守屋さんは若い頃は右手で投げていましたが、今は左手で投げます。2ゲームトータル189点でした。守屋さんは一番にくじを引いて郵便ポストの貯金箱を当てました。

(斉藤 典子)

中々の腕前でした。かつて泉の家のボーリングクラブに入っていた

島宮さんはストライクを出して飛び跳ねて喜びを表しました。最近休みがちだった野尻さんも久しぶりに出てきて、車椅子に乗ったまま、三角台を使って参加しました。レストランでの食事は豪華な松花堂弁当でした。いつものように食べる時間はほぼ10分で終了。しかし和やかにおしゃべりをしていつもよりのんびりと楽しい時を過ごしました。

昼食後に成績発表をしました。1位は若い頃にアベレージ200を



松花堂弁当を食べました。結果発表がまちどおしい!

日の出舎だより

創作活動

日の出舎では、施設の事業計画に基づいて、今年度より、さまざまな日中活動を始めました。これは、今まで主として行っていた作業と並行して、体操、エアロビクス、外出での見学や体験学習など、利用者に社会学習や趣味の機会をこれまで以上に提供していくという取り組みで、施設での、ともすると単調になりがちな日々の生活に変化と潤いをもたらし、また、利用者自身が、将来を通して楽しみを味わうことができるような趣味と出会うきっかけ作りを目的と

しています。今回は、そういった諸活動の一つである、『創作活動』を紹介させていただきます。

『創作活動』では、週一回、利用者と職員がいっしょになって、さまざまな芸術作品の製作に取り組んでいます。今回は展示販売会に出展する『ドミノのレリーフ』を作りました。これは、木工作業で不要になった規格外のドミノに着色をほどこし、ボンドで大きなベニヤ板に接着、貼り絵を作るものです。貼り絵の題材については、皆で話し合った結果、年初の発表なので、正月にちなんだテーマを！ということになり、多数決で、『鏡もち』『寒梅』『獅子舞』が選ばれました。

まず、インターネットでカラフ



みなで色を塗っています



色の塗り終わったドミノです



絵の外枠の貼り付け中です



鏡もちのできあがり

ルな挿絵を探して引き伸ばし、白色に塗ったベニヤに鉛筆でトレースします。同時進行で、さまざまな絵の具を混ぜて好みの色合いを作り、ドミノに塗っていきます。片麻痺の方も補助具を用いて色塗ります。色が塗り終わったドミノはボンドを塗り、板に幾重にも貼り付けていきます。ドミノのほかに、受託作業で木製コースターの残り部材を糸鋸でカットして使います。日頃、木工作業に従事している方々だけに、普段使っている具材を加工して作成するということが興味もひととき強く、気分も新たに、普段やり慣れない下絵描きや色塗り、接着などを行っています。

地元デパートでの発表というこ

岡本ホームだより

ボランティアさんへの感謝をこめて・・・

12月13日(土) 鎌田区民センターにて、日頃お世話になっているボランティアの皆さんをお招きして、『年納会』を開催しました。一緒にお弁当やケーキを食べ、ゆつくりとお話に花も咲き、楽しいひとときを過ごす事ができました。また、表現グループによる劇『サウンド・オブ・ミュージック』を発表しました。1年間練習した

とで、ぜひ友人や家族に見ていただこうと、利用者も意気揚々と製作に励みました。当日は、製作に関わった利用者はみな現地へ足を運び、訪問客の方から感想を聞こうと計画しています。実際にご覧になった方からの感想はかなりの励みになります。これからも、皆でいろいろなアイデアを出し合いながら、新しい作品作りに取り組んでいきたいと思っています。

(二見 秀彦)



お世話になったボランティアさんの紹介

成果を、皆さんに見ていただき、温かい拍手を頂いて、メンバーも満足そうな笑顔でした。その後は、日頃の活動風景や行事の写真をスライドで上映しました。1年間を振り返り、ボランティアさんとかんばった行事や、外出を思い出し懐かしい気持ちになりました。また、ゲストの玉川聖学院生徒さんからの素敵な歌のプレゼントも頂きました。

現在、岡本福祉作業ホームでは、年間約680人(2007年度)のボランティアさんにご協力頂いています。内容は、就労系事業の下請け作業や、手工芸、生活介護事業の織りや陶芸、絵画、外出や調理

実習、ストレッサ、イベントのお手伝い等さまざまです。作業では、ボランティアさんの専門技術に助け



玉川聖学院の皆さんの歌に聴き入っています

玉堤分場だより

「玉堤分場での食品衛生管理」

玉堤分場では作業としてクッキーを作っております。食品を製造・販売する以上、私達は衛生管理に非常に気を配っておりますが、作業スペースが食堂と兼用になっている為、作業以前に既にリスクが発生しております。

今回は玉堤分場での衛生管理の取り組みについて、以下の6点を紹介したいと思います。

①用途に限らず、食堂を使用した後は必ず掃き掃除とピュラックスによる洗浄・消毒を徹底して行う。

②作業前にはセーター等毛玉のついた衣服を必ず脱ぎ、入室時には靴裏を消毒する。また帽子・マスク・手袋で可能な限り毛髪や肌を外に出さないようにし、職員もその状態を確認する。

③製品の袋詰(ラッピング)作業では工程毎に必ず中身をチェックし、異物混入を防ぐ。

④ボールや器具は使用後に必ず熱



「生地はカッチカチやで」

湯で煮沸消毒を行う。

⑤クッキーの材料は値段に限らず、毎回同じメーカー・同じブランドを使用する。(例えば、四葉無塩バターなど)

⑥利用者・職員全員、毎月の検便を実施する。

可能な限りの衛生管理を行っておりますが、これがゴールというものはありません。

何が正しい事なのか、常に自問自答しながらも、クッキーを食べ下さるお客様や子供達の笑顔を楽しみに、皆さん笑顔で作業しています。

(木村 守孝)

シリーズ

自立

日の出舎

2008年11月11日に退所され都営住宅において自立生活をスタートさせた荒幡さんに話を伺いました!

Q いつから自立を考えていましたか?

A 入所した当時から考えていた。日の出舎に入所する前も不動産を回ったが断られた。役所から都営のことを教えてもらい、その当時からずっと応募が続けていた。

Q 自立生活を諦めようとしたことはありますか?

A 何度かある。都営への応募を始めてから、3年位経ってまだ当たらないことで諦めかけたが、職

員の助言もありまた自立を目指そうとする気持ちになった。また自立直前でひどい腰痛になってしまい、もう無理かと思うこともあったがなんとか持ちこたえた。

Q 自立する前に不安だったことは?

A 病気のこと。一人暮らしだから入所と違い面倒見てくれる人がいない。自分自身の生活が乱れてしまう恐怖があった。

Q 自立して思ったことは?

A 良いことも悪いこともあるが



お茶を入れてくれました

伸び伸び生活出来るので自立してよかった気持ちのほうが強い。

Q 自立生活で大変なことは何ですか?

A 今のところ大変に思うことはない。役所の担当の方も定期的に訪問してくれるので助かっている。腰痛も良くなって買い物にも行けるし、昼と夜は宅配弁当を頼んでいるから食事の心配ありません。

Q 入所と自立生活の違いは?

A 生活環境が全く違う。家事を全て自分で行わなければならないが、集団生活のように他人に気を使うことがないので、ストレスがなくなった。

Q これから自立生活を目指す皆様へ一言!

A 世の中にはすごく重い障がいを負いながら自立している人が沢山います。私は障がい较轻いほうなので出来ないわけではないと思います。やれば出来るという強い気持ちを持つて是非自立を目指して頂きたいと思います。



仲良しの小谷野さんと

荒幡さんは日の出舎に入所してから毎京都営住宅の応募を続けていました。また日の出舎の自立体験プログラムに沿って「のぞみ荘」での自立体験も行い、着実に自立への道のりを歩んでいきました。そしてついに都営住宅が当選し、様々な書類の提出や度重なる面接を経て、念願であった自立生活を始めました。入所生活の頃よりも活き活きしておられました。荒幡さんの今後の人生が素晴らしいものになりますよう心から願っております。

(加藤 圭介)